

としよかん通信

12月の休館日

休館(月曜) 4、11、18、25日
祝日振替日 26日(火)
図書整理日 29日(金)
年末年始 31日(日)~1月5日(金)

石狩市民図書館 石狩市花川北7条1丁目26番地 ☎72-2000 ☎73-9120
http://www.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp/ ✉ishikari-lib@mail.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp
●開館時間 火・金10:00~18:00 水・木10:00~20:00 土日祝10:00~17:00
花川北・花川南・八幡・浜益分館10:00~17:00 厚田分館13:00~17:00

司書日記

おはなし会って楽しい!

「子どもたちに読み聞かせるための絵本を探しているのですが」
こどもカウンターでは、時々こんな相談を受けることがあります。今回ご紹介するのは「子育てサークルのお誕生会でおはなし会をやりたい」と相談を受けたときのことです。

ビッグブックやエプロンシアター

図書館では、おはなし会にぴったりの絵本や小道具を貸し出しています。相談者のサークルには3、4歳児が15人いるとのことでしたので、絵がよく見えるように、通常の絵本の倍以上あるビッグブックをおすすめしました。



エプロンを使ってお話を展開するユニークな「エプロンシアター」(右)と、通常の2倍以上も大きな「ビッグブック」(上)



「子どもたちに読み聞かせるための絵本を探しているのですが」
こどもカウンターでは、時々こんな相談を受けることがあります。今回ご紹介するのは「子育てサークルのお誕生会でおはなし会をやりたい」と相談を受けたときのことです。

小道具を使ってメリハリ

おはなし会では、紙芝居や手遊びなども加えて流れにメリハリを付けると、おはなし会に慣れない子どもたちでも飽きずに見てくれます。

魅力は「子どもの笑顔」

ブックスタートで絵本を手にした赤ちゃんに、引き続き楽しんでもらえるような環境をつくりたい。そのために、子どもにお話の楽しさを伝えていただけると大人が増えればと、図書館では平成18年度から子どもや子ども本についての勉強会を開催。誰かに話をしてもらおう楽しさを、より多くの子どもたちに体験してもらう環境づくりを目指します。

ブックスタートで絵本を手にした赤ちゃんに、引き続き楽しんでもらえるような環境をつくりたい。そのために、子どもにお話の楽しさを伝えていただけると大人が増えればと、図書館では平成18年度から子どもや子ども本についての勉強会を開催。誰かに話をしてもらおう楽しさを、より多くの子どもたちに体験してもらう環境づくりを目指します。

おはなし会を開いてみたいと考えている方は、ぜひチャレンジしてください! 子どもが喜んでくれたとき、その笑顔でやみつきになりますよ。おはなし会についてのご相談も受けていますので、お気軽にお問い合わせください。

(萬谷美保子)

第4回図書館講座「和凧を作ろう」

この冬休み、和凧作りに挑戦しませんか! 日本古来の伝統に親子で触れてみましょう。

対象 小学3~6年生のお子さんと保護者
日時 平成19年1月14日(日) 10:30~15:30(休憩12:30~13:30)
場所 研修室2
講師 松井則彰氏(財団法人北海道開拓の村)
申込 12月27日(水)までに本館貸出カウンター、または本館へ電話

※申込者多数の場合は抽選



お天気がよければ実際に凧揚げも予定しています!

図書館利用者懇談会

~市民図書館をより「市民の図書館」にするために~

図書館をご利用されている皆さまと意見交換し、いただいたさまざまな視点を今後の図書館運営に生かします。

日時 12月10日(日) 13:00~15:00
場所 視聴覚ホール



浮島現象。石狩浜から見た石狩湾新港の防波堤が宙に浮か上ったように見えています。

石狩おばけ？——石狩湾の蜃気楼

冬の晴れた日、海の方こうに見える船や陸地が、水平線から浮かび上がる——そんな不思議な光景を見たことはありませんか？

もちろん実際に空中に浮かび上がるはずはありません。これは「浮島現象」と呼ばれるもので、一種の蜃気楼。石狩浜から見た場合、小樽の高島岬や浜益の雄冬岬、遠くの船などが空中に浮いて見えます。蜃気楼とは、地表や海面付近の空気の温度差が大きいとき、光の異常な屈折によって幻の像が見える現象です。中国では蜃（ハマグリ）の化け物「氣」を吐いて幻の楼閣を出現させる、と考えられています。

冷たい空気の下に温かい空気があると、光の屈折によって、遠くの景色の一部が地面や海面に鏡があって反射しているかのように見えます。そのため、船や陸地の下に空の一部が見え、あたかも宙に浮いているように見えるのです。夏のアスファルト道路で、雨が降ってもいないのに幻の水たまりが見える「逃げ水」も、まったく同じ原

理です。どちらも幻の像(空など)が実体の下に見えることから「下位蜃気楼」といいます。たびたび見られ、特に珍しいものではありません。

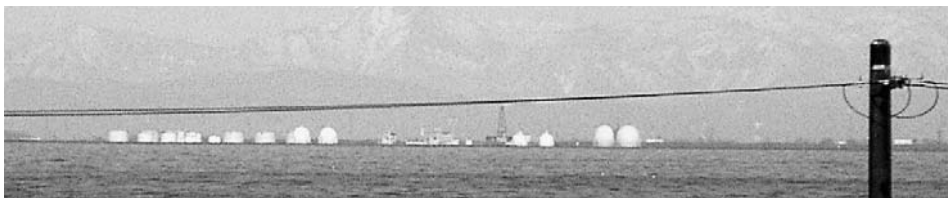
それに対して対岸の陸地や建物などが上に伸び上がったように見える蜃気楼もあります。こちらは「上位蜃気楼」という珍しい現象で、限られた場所です。富山県魚津市で有名な蜃気楼はこちらのタイプ。対岸の本当は背の低い家並みが、伸び上がってビルのように見えます。

この上位蜃気楼、実は小樽でも見ることが分かっています。古くから地元の人に「高島おばけ」と呼ばれており、1846年には松浦武四郎も目撃しています。現在は小樽市新博物館開設準備室の大鐘卓哉さん(北海道・東北蜃気楼研究会会長)が研究しています。何度も観測しています。対岸の石狩湾新港のガスタンクなどが、まるで高層ビルのように高く伸び上がるのです。春から初夏、海

水温が低い季節に、陸地で暖められた空気が石狩湾上空に流れ込むことによって空気に極端な温度差ができるため、と大鐘さんは考えています。

小樽から石狩が蜃気楼になって見える——ということは、反対に石狩からも小樽の蜃気楼が見えるはず。大鐘さんは石狩からの目撃情報を知りたがっています。4月6月の晴れた暖かい日が上位蜃気楼を見るチャンス。もし、石狩から小樽の街や高島岬が伸び上がっているのが見えたなら、すぐに知らせてください！

(志賀健司)



上の写真は、小樽から見た上位蜃気楼。石狩湾新港のガスタンクが伸び上がっています。下は実際の景色。(2004年4月29日大鐘卓哉さん撮影)

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp